

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	24-021	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
A high density of ultra-processed food, alcohol & tobacco retail stores, and social inequalities are associated with higher mortality rates of non-communicable diseases in Mexican adults: 2005 to 2021 メキシコの成人における非感染性疾患の死亡率の高さには、超加工食品、アルコールおよびタバコ小売店の高密度化と社会的不平等が関係している：2005年から2021年の結果		
執筆者		
Garduño-Alanis A, Contreras-Manzano A, Salgado JC, Lamadrid-Figueroa H, Curi-Quinto K, Barquera S.		
掲載誌		
PLoS One. 2024 Apr 10;19(4):e0301387. doi: 10.1371/journal.pone.0301387. eCollection 2024.		
キーワード	PMID	
非感染性疾患、メキシコ、小地域分析、アルコール	38598474	
要旨		
背景： 小地域分析 (SSA) アプローチを使用し、メキシコの成人の非感染性疾患 (NCD) 死亡率に関連する市町村レベルの要因を予測した。		
方法： 2005年から2021年までの国勢調査および社会人口統計、医療サービスへのアクセス、市町村レベルの死亡率に関するデータを収集し、分析に用いた。負の二項回帰モデルを使用し、NCD死亡率の市町村予測因子を特定した。		
結果： 全国のNCD死亡予測値 (100,000人あたり)は、2005年は210.7 (95%CI: 196.1-226.7)であったが、2021年は322.4 (95%CI: 300.3-346.4)と増加した。NCD死亡率の予測因子としては、先住民族であること、貧困、メキシコ社会保障庁に所属していること、テレビのある世帯、および超加工食品・アルコール・タバコ小売店の密集度が高いことであった。		
結論： 超加工食品、アルコールおよびタバコ小売店の規制や社会的不平等を減らす取り組みなど、NCDによる死亡に関連する地域要因に焦点を当てた政策が必要と考えられた。		